1 巻 11 号

NMUN • JAPAN KOBE 2016

2016 年 11 月 26 日

THE NMUN KOBE TIMES

Kobe City University of Foreign Studies

すべての機関で議論が最終ステージへ向かう 模擬国連世界大会 3 日目

模擬国連世界大会(NMUN)の 3 日目は神戸国際会議場にて行なわれた。総会(GA)、難民高等弁務官事務所(UNHCR)、安全保障理事会(SC)、そして経済社会理事会(ECOSOC)の 4 機関で、この日行われた二つのセッションを通じて議論が熟した。

11 月 25 日は女性に対する暴力撤廃の国際デーであり、16 日間に渡る行動が開始される日である。このキャンペーンは「あなたのまわりをオレンジ色に染めよう」と呼ばれている。オレンジという色は人権侵害のないより良い未来のシンボルである。この日を記念するバッジが代表に配られ、それをつけることで各自がより高められた正義感を示した。

国連総会(GA)

八つのワーキングー・ペーパーが前日に無事に提出され、この日の代表たちは決議案の完成に向け、引き続きワーキングー・ペーパーの修正に取り組んだ。公式協議では、レバノンが広島の被爆者について言及し、世界人権宣言第 1 条を読み上げた。第 1 条には、「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とにおいて平等である」と記されている。彼女は第 1 条を参照し、デリゲートたちに互いに協力し合い、そしてこの会議中にワーキング・グループでも協働すべきだと主張した。代表はあらゆる情報を調べ、言及することを通して、彼らのポリシーに磨きをかけた。

午後には、アフガニスタンとトルコ、レバノン、イランそしてその他の国によって構成されるワーキング・グループが、中東非大量破壊兵器地帯の概念についての意見一致を目指し動いた。コンゴ共和国はまた、核兵器だけでなく、化学兵器や生物兵器をも含めたあらゆる大量破壊兵器の使用を禁止する必要性を強調した。常任理事国である中国、ロシア、フランス、イギリス、そして米国は、他の多くの国と核不拡散条約（NPT）に取り組んだ。

（2 頁に続く）

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)

セッション V は欠席のイタリアとパキスタンの２カ国を除いた合計 51 ヶ国で始まった。公式協議では、多くの代表が難民の子どもたちについてのスピーチを行なった。中国は「どの難民の子どもも、信頼でき、依存できる保護者ともとで暮らすべきだ」と述べた。スイスは他の多くの欧州諸国と共同し、難民の子どもやその家族が直面している多くの問題を解決する包括的で持続可能な計画の作成に取り組んだ。セッションの終盤に、アルゼンチンは他の代表を鼓舞する以下のようなメッセージを伝えた。「どの意見も、どの考えも、優れています。だから私たちはお互いに対話することが大切です。そうすることで私たちは社会をより良い場所に変えることができるし、より良い決議案を生み出すことができます。」

午後のセッションの冒頭、前回提出されたワーキング・ペーパーが各グループに返却された。代表たちは引き続き、ワーキング・ペーパーに総意を得ることを目指した。オーストラリアは二つのワーキング・ペーパーの内容について説明した。一つは、難民に安全な場所を提供することについて、もう一つは難民に精神医療を提供することについてである。オーストラリアはこう言及した。「私たちのポリシーを通じて難民はトラウマを乗り越えることができる。」他のワーキング・グループは異なるテーマに着目した。例えば、コンゴとイスラエル、ペルーは「住居が難民問題を解決する上でのカギとなるだろう」と述べた。最終日を翌日に控え、代表はほかの代表との意見の折り合いを見つけるのに苦戦した。

安全保障理事会(SC)

セッション V では、四つのワーキング・グループが、主文の中に一つの非友好的修正案と三つの友好的修正案を含む決議案を働きかけていた。2 度目の公式協議で、マレーシアは同決議案に対する懸念を表明し、一方ロシアは決議案に友好的修正案を提案するようマレーシアに促した。ウルグアイは前夜のセッションにてロシアが主張した懸念を挙げ、そして決議案 1 がこの安全保障理事会における協議の重要な側面を象徴していることを強調した。4 度目の公式協議でロシアは、同国が決議案を、特に北朝鮮の核開発計画との取引に関して NGO の制約事項を別の言葉で書き換えたことを肯定的に捉えていると述べた。ロシアはまた、主文条項 8 にある、北朝鮮経済に打撃を与える可能性のある過度に辛辣な言葉を取り除こうと試みた。このセッションの間、日本は「ご静聴ありがとうございます」という言葉でスピーチを締めくくった。何人かの代表がスピーカーリストを締め切ることを提唱し、セッションは決議案に対する投票へと移行した。

セッション VI では、ベネズエラが初めてのスピーチを行ない、マレーシアと英国がそれに続いた。北朝鮮の状況についての決議案には、二つの非友好的主文条項があった。その条項について、賛成派と反対派の代表が２人ずつスピーチを行い、それから投票が行なわれた。一つの決議案〔DR1/1/1〕は通過し DR からは取り消され、他の〔DR1/1/2〕は通過せずそのまま残った。それからロシアのモーションにより、DR1/1 の指名投票が行なわれた。結果的に、国連安全保障理事会の常任理事国である中国とロシアが「反対」または「否」と投票したため無効となった。それから DR1/2 はかか喝采により採用され決議案 1/1 となった。次に DR1/3 は拍手により反対されプラカード投票で決議案 1/2 として採用された。DR1/4 がすでに撤回されていたことから、DR1/5 は喝采による反対もなく採用された。議題 I をめぐる会議は拍手によって幕を閉じた。そして会議は紛争防止と女性・女児のエンパワーメントについての議題 II へ移行した。議論は翌日に持ち越された。

1 巻 11 号翻訳者　南野安耶レベッカ（ICC 翻訳クラス）

国際連合経済社会理事会(ECOSOC)

代表たちは前日、四つのワーキング・ペーパーを議長に提出した。都市インフラの整備と気候変動、情報通信技術、教育と男女平等、そしてアシスタンス通信技術訓練（ACTT）についてのものである。そして議長からフィードバックを受け取った。次回のセッションで投票が始まるため、代表たちは決議案を修正し、再提出する必要がある。

公式協議でのスピーチでは、モルドバ共和国が自分たちのワーキング・ペーパーを誇りにする様子が伺えた。モルドバは広く見解の一致に到達したと宣言し、「私たちは経済への投資やより多くの援助をいかに得るかに着目していますが、同時にどうすれば私たちの経済を発展させることができるのかについても考える必要があります。そのために、先進国と発展途上国の間に協力関係を結ぶ必要があります」と述べた。一方で、米国は「台風、洪水、その他の様々な問題に対処するために災害防止のための仙台枠組を拡大する努力をしなければならない」と強調した。彼はさらに「容易に意見は一致できないものだが、必要不可欠だ。」と付け加えた。

昼食後に始まったセッション VI は、ワーキング・ペーパーに自分たちのアイデアを付け加えることのできる最後のチャンスであった。パナマは教育と男女平等についてのワーキング・ペーパーに注力した。女性や障害者、先住民などの弱い立場の人々が常に自然災害の主たる被害者になることに言及し、これらの人々に自然災害についての専門的な知識を与えることで、彼らの生活環境をこれ以上粗悪なものにすることは止められると述べた。

地元市民が初めて NMUN を見学

NMUN の期間中、学生運営委員会は地元市民や神戸外大生のために会場のガイドツアーを行なった。ツアーの参加者はネットから申し込むことができ、３人の神戸外大生と１人の兵庫医学大生、神戸外大と神戸学院大学で英語を教える米国人の男性１人、そして夫が NMUN に関わっているという女性１人が集まり、この国際的催しを初めて見学した。神戸外大イスパニア学科１年の伊藤宇さんは、普段英語を話す機会は普段ないため、多くの外国人と話すことのできる素晴らしい機会であると話した。

伊藤さんと訪れた同学科の渡辺千加良さんは、目にしたことに驚いた。実際の国連では、人々が静かにそして緊張した雰囲気で着席しているイメージがあったが、彼が目にしたのは多くの代表が気楽な雰囲気で床に座りこんで他の代表と非公式に協議しているというものであった。英米学科４年の木尾奈々子さんは、京都の文化視察のボランティアの一員だったためツアーに申し込んだ。彼女は NMUN を見学することに興味があり、ボランティアをする際に国際情勢について知りより深い理解を得るために NMUN について知りたかったという。

一方、アンソニー C トーバート教授は何度か日本大学模擬国連大会（JUEMUN）に関わったことがあり、仕組みは分かっていたが、NMUN は初めてだった。彼は、NMUN の方が代表の平均年齢が高いことなど NMUN と JUEMUN の違いをいくつか指摘した。どちらの大会にもそれぞれの利点があることを興味深く感じているという。

兵庫医学大学の古山恵実さん、地元市民の岩佐仁美さんも参加した。どちらも神戸外大の学生や神戸市職員という NMUN に繋がりのある家族がおり、その姿を見たかったのだという。岩佐さんは、地元市民が NMUN の情報を得ることは難しいため、大学がこのようなツアーを提供してくれたことは素晴らしいことだと言った。

インタビュー

自らの苦難を語った米国からの代表

スーザン・スチュアートさんはレバノン大使として、国連総会のセッション V の公式協議でスピーチを行なった。彼女はロングアイランド大学ブルックリン校から参加し、神戸へは長旅であったという。今回、スチュアートさんは大量破壊兵器についてのリサーチに多くの時間を費やした。スピーチの中で彼女は、世界人権宣言第 1 条を引用した。なぜなら、NPT が大量破壊兵器の所有を他国に促していることを批判したかったからだ。レバノン大使としてスチュアートさんは「私たちは手を携えていくことができます」と述べた。スチュアートさんはまた、日本での滞在を楽しんでいると言う。文化視察で広島を訪れ、1945 年の 8 月に起こった出来事を知ったときは悲しかったと語った。（東前彩美）

日本で有意義な時間を過ごす

ハワイ・パシフィック大学で学ぶノルウェー出身のクリスティーン・キヴレさんは、安全保障理事会でマレーシア大使を務めている。彼女は同理事会の一員であること、そして多くの人に出会えることをうれしく思っていると話した。また、彼女は日本文化に興味があるため、ここ日本でこの会議に参加できることを幸せに思っているという。彼女は以前ニューヨークで国連総会の代表として会議に参加し、今回安全保障理事会で代表することは、国連が現実社会でどのように機能しているかを理解するために重要であると考えている。この会議を通じてキヴレさんは、安全保障理事会の他のメンバーと協力して働くことを目標にしている。日本に興味があるため、彼女は広島ツアーに参加したかった。「広島を訪れたことはとても思い出深い経験で、多くのことを学びました。文化を見るのは素晴らしかったです。」キヴレさんはまた、文化視察の際にガイドしてくれたボランティアに感謝の意を示した。（森田帆風）

地球社会で生きることの意味を学生に教える

マリアム・ボジャングさんは NMUN において最も重要なことは外交であると強調した。彼女はテキサス大学テイラー校の修士課程で政治科学を学んでいる。彼女はロシアの使節団長として同大学の学生を監督する立場でもある。ボジャングさんは NMUN と国際社会に必要なものについて語った。「ここに来た目的は一つになるということです」と言う。国連は歩み寄ることであり、拳や力を見せつける場ではない。ボジャングさんは各代表が地球社会で生きることの現実を考えるべきだと言う。例えば、米国は独立した大国であるが、そこにあるほとんどの物は中国製だ。彼女は学生が競わないことを望んでいる。というのも、どの国も互いに依存しており、いかなる国も外交において、そして妥協案に到達するために協力している際に優位に立つべきではないからだ。ボジャングはさらに、自らの文化と日本の文化、特にファッションに違いを見出した。西アフリカにゆかりを持ち、米国に暮らす彼女は、日本のファッションは全く異なり独特だと言った。「すべてが私にとって新鮮。文化の違いを楽しんでいます。お寿司にもチャレンジしたい！」と笑った。（船橋ゆずり）

この日の夜には、参加大学の引率の教員 33 名が三宮の北野坂にある有名なジャズクラブ「ソネ」にて行なわれたジャズナイトに参加した。そして世界的なジャズの定番であるフランク・シナトラのヒット曲を楽しんだ。

国際社会に関与すること

イタリアのエリンコ・マントヴァニさんは、初参加の NMUN に積極的に挑戦している。彼は国連総会でコンゴ共和国大使を務めている。イタリア議会や欧州委員会などの模擬会議を数回経験しているとはいえ、すべて英語で国際政治を討論する NMUN に参加するのは初めてのことだ。マントヴァニさんは会議中直面した困難について話した。「高いレベルに議論が熟していくと、自分が学んだことを超えてくるため難しい。」将来的に国連で働くことも考えているため、実際の国連の雰囲気を体験できるこの機会を利用したいと思ったという。自分が優先的に取り組んできた議題は取り上げられることがなかったが、マントヴァニさんは自分の目標を達成するために精一杯努力している。（船橋ゆずり）

他の大使と力を合わせて

ビアンカ・ディアズさんは米コネティカット州のブリッジポート大学から参加し、安全保障理事会でウクライナ大使を務める。3 日間のセッションを終えて感じたのは、皆で協力することは素晴らしく、そして楽しいということである。「すべての意見に皆が耳を傾けた。それは模擬国連において最も重要なことの一つです」と彼女は信じている。ウクライナは 他国のニーズが考慮された上でさらに自国の利益が満たされるべきだと考えている点で興味深い立ち位置にあるという。「ウクライナを代表し、こうした中道を演じることができたことは光栄です」とディアズさんは述べた。日本について、彼女はとても好意を抱いておりいつも訪れたいと思っていたという。今回が初めての日本訪問であったが、このような形で来ることができて嬉しいと話した。広島と京都での文化視察を思い返し、ディアズさんは特に、広島が継承しているものを賞賛した。日本の大都会での暮らしはどのようなものか、東京を自分の目で見たいという。彼女はうどんやそば、とんかつといった日本食もお気に入りだという。（大石紗英）

難易度の高い会議でイニシアチブをとる

「自分の才能と好きなことに気づかせてくれた MNUN に恩返しがしたい。」リバーサイド・シティ・カレッジ(RCC)の 22 歳の若き教員アドバイザー、マシュー・クレイグさんは言う。間もなくカリフォルニア大学(CU)において学士課程を開始するが、NMUN に参加するために休学した。クレイグさんは RCC で 2 年前に開催された模擬国連（MUN）でも大使を務め、現在は RCC からの使節団を指導する立場にある。彼は RCC から NMUN に参加する利点について話した。RCC は米国から参加する唯一のコミュニティカレッジであるが、学校としての取り組みは素晴らしいという。クレイグさんは、学校と交渉し、費用面での全額助成を受けカリフォルニア南部から遥か離れた日本での NMUN への参加を可能にした。「NMUN に参加することは学生に国際問題について話す機会を与えるだけでなく、違う国を訪れることで国際的経験を広げる機会でもあります」と言う。クレイグさんは、学生が大使として行動するための教育プログラムを準備したので、RCC の学生は自信を持ってその能力や意思を示すことができているという。「会議ではリーダーとして行動すること、そうすればグループが中心的役割を担うこととなり、会議自体も深まると学生に教えています。」神戸を訪れ、日本人の礼儀正しさに、そして暖かいトイレの便座に驚いたと言う。「使節団では、皆でお金を出し合って便座を一つ購入しようとも言っています」と笑う。この夜東京へ向かう予定で、そこで様々なことに挑戦することが楽しみという。（船橋ゆずり）

京野菜について知っていますか？

山崎智美

日本には様々な野菜がありますが、京都の伝統的な野菜を知っていますか？それらは「京野菜」と呼ばれています。JA 京都によると、京野菜と名乗るためには特別な条件を満たす必要があります。例えば、明治時代（1868-1912）またはそれ以前から栽培されている歴史があること、京都で栽培されていることなどです。そのいくつかは「京都のブランド野菜」に選ばれています。京都は海から離れているため、 京都の人々は長い間野菜の改良に取り組んできました。京都には高品質の地下水、肥沃な土壌、穏やかな風があり、夏と冬で気温が大きく異なります。これらの要因により、京野菜は通常の野菜と比べ味が異なり栄養素が高いのです。

まずは「九条ネギ」を紹介します。この野菜は日本でもよく知られています。ネギは平安時代にはすでに栽培されていました。そして九条ネギは江戸時代に生まれたので長い歴史があります。九条ネギの特徴は緑の部分を食べること、その部分はぬめりが甘く柔らかいことです。まずは緑の部分を食べそれから甘くやわらかい少しぬるぬるした部分を食べます。

次に「堀川ゴボウ」を紹介します。これは通常のゴボウより柔らかいです。香りがよく味も良いと言われています。しかし普通のゴボウより値が張ります。一般的に世界のほとんどの人はゴボウを食べたことがないと私は聞きました。ぜひ日本にいるうちにゴボウを食べてみてください。

京都には京野菜をメインに扱っているレストランがいくつかあります。例えば、京都にあるパン屋の『深堀』では、「九条ネギとゴマのリーフパイ」や「堀川ゴボウのフィナンシェ」のような京野菜を使ったケーキやパイを買うことができます。

最近は日本だけでなく世界的に原種野菜は減少しています。そのかわりに、一代雑種の野菜は育てやすく多産で長期にわたって保存可能なため人気です。

しかし、私たちは今一度考え直す必要があります。私たちは原種野菜を守るべきです。研究によると、日本では 30 種類以上もの原種野菜が消滅しました。原種野菜を栽培する人のほとんどは 70 歳以上であり（映画『よみがえりのレシピ』ウェブサイトより）、 それらの人々が栽培する原種野菜も近い将来消えてしまう可能性があるのです。「生きる文化遺産」である原種野菜を私たちは絶滅から守らなくてはなりません。

一般的にほとんどの人は甘い野菜を好む傾向があるため、農家の人たちは甘く改良された野菜を栽培します。それらはよく売れますが、仮にすべての農家がこれを行うと、私たちは重要な伝統を失ってしまうことになります。しかし最も重要なことは、新しい時代に順応しながら伝統を守ることです。京野菜の中には、比較的小さな野菜が必要な核家族に対応するために改良されたものもあります。しかし改良は野菜の大きさについてのみすればよいのであり、味や品質についてする必要はありません。なので、味の伝統を守りましょう。